



日本建築学会

東北支部年報

第 31 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

巻頭言

— 努力はむくわれる —

東北支部長

田中 礼治

誰も考えていないことが起こった。2011年3月11日の自然の猛威は日本の歴史に新たな1ページを刻むことになるのであろう。東北地方太平洋沖地震で亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げる。また、家を失い、避難生活を強いられている方には激励する言葉もないが、気をしっかりとって頑張ってもらいたい。

このような自然の猛威の前には我々がこれまで築いてきた建築学とはいったい何だったのかという疑念の感にさいなまれる。しかし、被害をよく見ると、これまで永々と築いてきた建築学の歴史があったればこそということも判る。少し慰められるが、建築学の一部が崩壊したような感じを持っている方々も多いのではないかと思う。もう一度、初心に戻って建築学の修復をする必要があるのではないかと考えている。

2010年度は、2010年度日本建築学会設計競技において宮城大学大学院生の作品が最優秀賞を得るなど東北支部にとってうれしい出来事の年であった。東北地方にも間違いなく、将来楽しみな若い人達が育っている。心強いことである。このような多くの若者が失われなかったことを祈るばかりである。

日本建築学会東北支部災害調査委員会を立ち上げ、調査を開始した。土木学会とも提携し、効率の良い調査体

制も構築された。まず、調査に力を入れなければならないが、復興にも貢献していかなければならないと考えている。先日、気仙沼へ調査に行った折りに、気仙沼市長にお会いした。市長が我々に一言、「これからどうしたらよいのですか」と語った。その言葉は短いが、とても重い。回答を探して貢献するのが学会の役割であろう。日本建築学会の本部に「災害復興委員会」が立ち上がった。それを受けて、東北支部も復興に向けて動き始める必要がある。それが、「これからどうしたらよいのですか」という一言に貢献していく最善の方法だと考えている。

巻頭書として悲観的なものになってしまったが、東北の若者には将来楽しみ方々が多く存在している。大切に育て、これからの日本の建築学を世界の冠たるものとしてもらいたいと願う。

もくじ

○巻頭言	1	○2010年度設計競技東北支部審査報告	6	○2010年度事業報告	16
○企画記事	2	○2010年度東北支部研究報告会報告	6	○2011年度事業計画(案)	18
○建築教育事業報告	2	○2010年度日本建築学会東北支部総会報告	7	○法人・賛助会員名簿	20
○第31回東北建築賞(作品賞)選考報告	3	○研究部会活動報告	8		
○第21回東北建築作品発表会報告	5	○支所だより	12		
○第30回東北建築賞表彰式及び展示会報告	5	○常議員会から	14		
○「作品選集2011」東北支部選考経過報告	6	○支部役員名簿	15		

「みちのくの風 2010 山形」開催報告

常議員（総務企画） 渡辺 浩文

「みちのくの風 2010 山形」は 2010 年 6 月 19 日(土)、20 日(日)の両日に、山形県山形市の東北芸術工科大学で開催された。今年度は、第 73 回東北支部研究報告会、招待講演、パネルディスカッション、見学会、第 30 回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会と両日を通してのパネル展示会を行った。それらの概要について以下に示す。

第 73 回東北支部研究報告会は、発表題数：112 題、発表会参加者数は延べ 166 名（19 日 58 名、20 日 108 名）であった。これらの発表論文は今年度より電子投稿にて受付され、日本建築学会東北支部研究報告集第 73 号 CD-ROM にて刊行された。また冊子版については、希望者に対して構造系ならびに計画系の二分冊がそれぞれ頒布された。

招待講演は、まず 6 月 19 日(土)に計画・環境部門の講演として、さらに本会・佐藤滋会長（早稲田大学教授）の支部訪問・会長講演として、「城下町都市のデザインと中心市街地の再生」と題して約 80 名の参加者を得て行われた。翌 20 日には慶應義塾大学准教授の小檜山雅之先生から、「住まいづくりを支援するリスクコミュニケーション」と題する講演を約 40 名の参加者を得て開催された。

パネルディスカッションはテーマを「サステナブルな東北の住宅デザイン-建築の地球温暖化対策ビジョン 2050-」とした。基調講演をアルセッド建築研究所・三井所清典先生より頂戴した後、三浦秀一・東北芸術工科大学准教授のコーディネートののもと、報告および討論が行われた。パネリストは、竹内昌義（東北芸術工科大学）、馬場正尊（東北芸術工科大学）、森みわ（パッシブハウスジャパン）、ディニル・プシュパラル（東北大学）の各先生である。67 名の参加者を得て活発な議論が行われた。

パネルディスカッション後、議論の対象ともなった「山形エコハウス」の見学会が約 30 名の参加者を得て行われた。

第 30 回東北建築賞表彰式は 6 月 20 日に行われ、それぞれの受賞者の記念講演を行った。パネル展示会には 19 日、20 日の期間中、建築賞作品賞 4 点 15 枚のパネルと、法人 3 社のパネル並びに日本建築家協会・山形会員の作品パネル 40 枚と模型 1 点を展示した。

なお、20 日の 13 時から東北芸術工科大学食堂を会場に懇親会を開催した。支部研究発表者、東北建築賞受賞者、地元関係団体、支所・支部関係者ら 34 名の出席を得て、親交を深めた。

おわりに「みちのくの風」の開催にあたりご尽力を頂いた東北芸術工科大学の関係各位ならびに日本建築家協会東北支部長・水戸部裕行氏らに謝意を表し、報告とする。

2010 年度建築文化週間事業報告

福島支所 大和田 光将

福島支所では、2010 年の建築文化週間事業として、10 月 16 日に福島市で「建築を想う環境講座」を開催いたしました。また、当講座に先立ち支所総会を開催いたしました。

当支所において 12 回目を数える建築環境講座ですが、今年度は「岩見沢複合駅舎」で 2010 年日本建築学会賞作品賞や 2009 年グッドデザイン大賞等を受賞された建築家の西村浩氏をお招きして、「建築はまちを救えるか？ ～岩見沢複合駅舎のこれから～」と題し、講演会を開催いたしました。高校生や大学生等の多くの方々にご参加いただき、盛況のもとに開催することができました。

講演の中で西村氏は、まず、土木・建築・インテリア・グラフィックを例に時間のスケールの違いによってモノに込める価値観や耐久性が変わることや建築と土木のスケールの違いを「蟻の目線、鳥の目線」と称して説明された後に「建築と土木の両方の視点をもってモノづくりをすることが街に対して有効な手段」と語り、3 つのテーマ「変わりゆく街・変わらない街」、「岩見沢複合駅舎」、「これからのまちづくり」について話されました。

最初のテーマ「変わりゆく街・変わらない街」では、戦後 60 年でまちがここまで整備されたことに畏敬を抱きつつも、時代の価値に翻弄された結果、全国各地の地方都市が疲弊してしまった現状や、今後のマイナス成長時代のなか、変わり続ける価値観に対して将来を見据えたモノづくりをする必要性について説かれ、三重県鳥羽市の「カモメの散歩道」を例に、歴史を踏まえた一つのモノづくりが市民の議論を生み、地域の記憶に根ざしたまちづくりなど次の展開につながっていくことを話されました。

次のテーマ「岩見沢複合駅舎」では、コンペ時の課題である「まちや市民に対して変わらない駅の価値と何か？」に対して「まち再生」をコンセプトに、①「鉄道のまち」の記憶を取り戻す（過去）、②まちに賑わいを戻す（現在）、③建築の枠を越えて未来をつくる（未来）の 3 つを目的として過去・現在・未来をつなぐプロジェクトを進められたことやそのために市民や関係者を巻き込みながら様々なイベントや仕掛けを行い、結果として参加する市民が雪だるま式に増え、まちを支える大きな原動力となる人々のつながりが生まれたことなどを話されました。

最後のテーマ「これからのまちづくり」では、岩見沢複合駅舎建設の過程で行われた市民協働プロジェクトで感じた「建築の力」や様々な分野の人々がそれぞれの枠を越えて連携することの大切さについて話され、最後に、個性を失った地方都市に対して、「日々の生活のなかで地方の独自の風景やまちが生まれるような社会づくりや社会のあり方を再生していくことが建築家としての大きな役割ではないか」と仰って講演を締めくくられました。

講演の中で西村氏が語りかける言葉からは、建築やまちに対する熱い想いが感じられ、地方で建築やまちに携わる一員として大いに共感すると同時に自らの建築やまちに対する想いを改めて強く感じた講演でした。

第31回東北建築賞(作品賞)選考報告

選考委員長 竹内 昌義

1、応募作品

・小規模建築物部門	11点
・一般建築物部門	17点
計	28点

2、選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議 2010年9月2日(木) 13:00 ~
於 日本建築学会東北支部会議室
選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

(2) 東北建築作品発表会 2010年9月25日(土) 9:50 ~
於 せんたいメディアテーク7階スタジオシアター
第21回東北建築作品発表会において応募28作品の発表が行われた。「No.8 清川の家」の発表者に急用が生じ、発表時間を繰り上げていただきたいという申し出があり、選考委員会で検討の結果、今回の件については順番を繰り上げて発表をお願いすることとなった。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第1次審査会 2010年9月25日(土) 15:15 ~
於 せんたいメディアテーク2階会議室
東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。1、企画力、2、技術力、3、地域への貢献・文化度、の選考基準を前提とし、2次審査対象作品として、約半数の8~10作品を選定するため、発表された作品について部門に関わらず1人7点ずつ投票を行った。その結果から、まず4票以上獲得した11上位11点を通過作品とし、得票数が0票、1票、2票の作品を落選とした。その後、得票数が3票の作品1点について審議した結果、第1次審査通過とした。以上の結果、小規模部門5点、一般建築物部門7点の合計12点を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された12作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して

行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を審査委員分担で作成し、審査委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については10月下旬から2次審査会(2011年1月29日)までの期間中で選考委員の中からの6チームで現地審査が行われた。

(5) 第2次審査 2011年1月29日(土) 16:00 ~ 於: 日本建築学会東北支部会議室

まず、全作品について一点ずつ、現地審査担当者から写真スライド等により報告を受けた後、作品についての質疑やアピールポイント等についての討議を全審査員で行った。各作品について長時間に渡って慎重に審議を行った後、審査員各自が小規模部門4点以内、一般部門4点以内を選定し投票を行った。投票の結果において必ずしも明確に判断がつかない作品があったため、点数を踏まえて再度作品賞候補として相応しいかどうか慎重に審議を行い、最終的に小規模部門については作品賞3点、一般部門については作品賞1点を選定した。さらに、一般部門について作品賞には至らないが優れた内容を含む作品と思われる2点を特別賞に選定することとした。結果は別表の通りである。

選考結果

作品賞部門4点

連続し、よりそう、ハコ/ニワ

【所在地】宮城県仙台市泉区

【設計監理】(有)都市建築設計集団

【施主】田子内 徳雄

【施工】榊片倉工務店

S博士の家

【所在地】宮城県仙台市青葉区吉成

【設計監理】SOY source 建築設計事務所 櫻井一弥/太田秀俊/安田直民

【施主】櫻井一弥

【施工】榊巧友技建工業

白鷹の家/SNOW LIGHT HOUSE

【所在地】山形県西置賜郡白鷹町

【設計監理】渋谷達郎+アーキテクチュアランドスケープ
一級建築士事務所

【施工】丸ト建設株式会社

鶴岡市立藤沢周平記念館

【所在地】山形県鶴岡市馬場町4-6

【設計監理】設計・計画 高谷時彦事務所

【施主】鶴岡市

【施 工】笠原建設・中澤工務店特定建設工事共同企業体

特別賞部門2点

仙台ファーストタワー

【所在地】宮城県仙台市青葉区一番町3丁目1-1

【設 計】大成建設㈱一級建築士事務所

【設計監修・監理】㈱日建設計

【施 主】ヒューリック㈱、日本土地建物㈱、㈱みずほ銀行

【施 工】大成・清水・松井・佐藤建設工事共同企業体

八峰町役場庁舎

【所在地】秋田県山本郡八峰町峰浜目名潟字目長田118番地

【設計監理】㈱青島裕之建築設計室

【施 主】八峰町

【施 工】大森建設㈱・保坂電気工事㈱

講評

作品賞部門

作品名：連続し、よりそう、ハコ／ニワ

外部に対し大きな開口をとりながら、内外の視線を意識して周到に計画・配慮された住宅である。エントランスホール・寝室・浴室には外部の視線から守られた小さなニワが準備され、外部空間との交感の場がそこかしこに設けられている。また、リビングダイニングから白く細長いニワを通して雑木林を切り取って見せ、周囲の家並みを視界に入れない設計には、設計者のこだわりを感じさせた。そこは理解できるが、もう少し周囲の雑木林の風景を取り込んでもよかったように思われる。しかし、白と黒の四角いハコの内側に、スキップしながら展開する空間が劇的な変化を示していて、平屋の小規模な住宅にもかかわらず、広がりや奥行きを感じさせてくれる優れた作品である。東北の住宅地環境の伸びやかさに呼応した新しい計画モデルの提案と、若いクライアント家族の成長と変化に応え、厳しいコストと闘いながらデザインやディテールを迫及した点が評価される

作品名：S博士の家

この住宅は、敷地のほぼ中央に2層（ロフトを除く）のボックスを配置し、そのボックスに直角にもう一つの細長いボックスを組み合わせ、7つのレベルの空間を創り出している。それらの空間に住宅としての機能を当てはめ、様々な幅と高さの階段で結ぶことにより、視覚的には一つの連続した空間ではあるが機能的にはある程度独立を保持する魅力的な空間を構成している。階段や廊下を住空間に取り込むことにより、より広く感じられる巧みな空間構成となっている。同様に、引き込みサッシと床仕上げの統一により外部空間ともつながっている。内外の入り組んだ空間は、迷路を彷徨うに似た楽しさが有り、近所の子供たちに人気があることも頷ける。構

造的には、2×10部材を格子状に組み合わせた壁構造とし広い無柱空間を創出しているが、これは入り組んではいるがつながりのある空間構成に寄与している。又、格子状の外周部が全て棚として使用されているのも楽しい。この住宅は設計者の自邸で独善的なアメニティ空間とも言えるが、これからの住宅購買層にとっては共感の持たれるアメニティ空間であり一般化されるものと考えられる。とにかく楽しい住宅である。

作品名：白鷹の家／SNOW LIGHT HOUSE

この住宅は光と風を積極的に取り込みつつ、東北の長い冬を快適に過ごす方法を提案する意欲作である。雪に閉ざされがちな雪国の住まいを、ここで考案された採光断熱壁によって、明るく、開放的なものになっている。寒冷地において採光を確保するために開口を大きくすることは冬期の熱的損失をもたらす危険もあるが、ここではポリカーボネイト複層板というローコストな材料を使いながら、熱損失を最小限にとどめるよう考えられている。暖房は欧州で普及する木質ペレットを燃料に使うストーブを導入し、設備面でも環境に配慮されている。また、大きく明け放つことが可能な開口と、ワンルームのような室内に設けられた採光吹き抜けは、コンパクトな住宅ながら外部からつながる伸びやかな空間を生み出し、夏には温度差換気を生み出すように計画されている。全体的に木と紙をつかった空間は居心地の良い洗練されたデザインになっており、今後こうした環境性能をデザイン面からも迫及する作品が東北にも多く現れることを期待したいと思う。

作品名：鶴岡市立藤沢周平記念館

本作品は、時代小説家として著名な藤沢周平氏の作品資料と作品世界を後世に伝えるために建てられた記念館である。かつて鶴ヶ岡城が存在した鶴岡公園内という、場として大変意義深く、また様々な制約が課せられる敷地に対して、建物の形態、仕上げなどにおいてきめ細かく対応し、調和が図られている。

展示室・収蔵庫を「蔵」とし、それを覆う「鞘堂」に全体の機能を収める構成は、雪国の伝統的な形式を、現代の環境性、防火性から再考し、取り入れられたとのことだが、地域・風土を真摯に読み解いた成果と言える。

内部に歩を進めるとそれぞれの廊下正面の開口から、大宝館や土塁といった歴史遺構が望めるが、距離が近すぎて必ずしも意図したシークエンスが実現できなかった点は残念に思う。

内装等には、地域の生産者と協力し、地場のスギ材を積極的に活用しており、特に収蔵庫の内装全面に無垢のスギを活用して調湿機能を図っている点は、自然素材の活用として特徴的と言える。

建築として、斬新さ、独創性に欠けるようにも思われますが、場に調和を図り、藤沢氏及び親族の思いに誠実に応え、丁寧に造られた作品として評価に値すると思う。

特別賞部門

作品名：仙台ファーストタワー

仙台ファーストタワーは、仙台の玄関口である JR 仙台駅から西に伸びる青葉通りと南北軸を形成する国道 4 号の交差する角地に建つオフィスビルである。このように立地に恵まれた建物だが、オフィスビルの設計においては建築における新しい方向性を提案することにおいて困難が伴うものである。本作品もその制約からは逃れきれなかったかも知れない。審査委員会では、この点がこの優れた作品をどのように取り扱うかという点において論点となった。しかしながら、本作品は細部に至るまで設計者の工夫と情熱が惜しみなく込められており建築物としては非常に高い完成度を誇っている。更に、オフィスビルの設計における窮屈さをはね除ける力強さもある。また、公共空地の提供など都市への貢献、高層棟およびアトリウムへの長周期免震構造の採用による事業継続性・アトリウムの災害拠点としての機能確保、CASBEE-S ランクの実現などの高い技術力を纏まり良く集約してパッケージとして提供している点などが高く評価された。以上より、特別賞に選ばれることとなった。

作品名：八峰町役場庁舎

本作品は、以下の点などにより特別賞と評価された。
まずは、主たる構造を在来の木造とし、地場材である杉を活用し、空間を構成していること。空間の構成も内蔵を模したセンターコアを中心に機能を分化し、それを吹き抜けでつなぐことで全体の一体感を演出し、限られた面積の中で必要な用途を過不足なく配置しているといった点などである。
環境問題への取り組みでも、ヒートポンプによる地中熱の活用をはじめ、ハイサイドライトなどによる自然採光・換気など積極的に検討しており、建築全体として環境に配慮していると評価された。
ただ、空間の良さとしての評価がある反面、執務空間が吹き抜けにより一体化されていることによる音のこと。来訪者の待合の空間がやや不足気を感じる。また収納が廊下などに表出し不足しているような印象などが懸念され特別賞となった。
近年、公共建築において規模の制限はあるものの木造建築が推奨されている。本作品が今後の公共建築の木造あり方の一つの回答として期待される建築であると十分評価されるものである。

- ・原田 栄二 東北大学大学院工学研究科
都市・建築学専攻
- ・恒松 良純 秋田工業高等専門学校
環境都市工学科
- ・西野 敏信 東北工業大学デザイン学科
- ・水戸部 裕行 榊羽田設計事務所
- ・京谷 国雄 日新設計㈱
- ・板垣 直行 秋田県立大学
建築環境システム学科

第 21 回東北建築作品発表会報告

常議員 (社会文化) 板垣 直行

第 21 回東北建築作品発表会は、平成 22 年 9 月 25 日(土)に、昨年同様、せんだいメディアテーク 7 階スタジオシアターを会場として開催された。本発表会は、東北建築賞作品賞応募者に作品についてプレゼンして頂くものであり、学会と地域社会との交流の推進、建築関係者の研鑽、ならびに東北地方の地域特性に立脚した建築作品の探求を目的とすると共に、作品賞の 1 次審査を兼ねている。今年是小規模建築物部門 11 作品、一般建築部門 17 作品の計 28 作品の発表が行われ、応募が少なかった昨年度と比べ盛況で長時間にわたる発表会となった。発表会に先立ち、田中礼二支部長より挨拶があり、その後、竹内昌義選考委員長により発表にあたっての注意事項が説明された。発表は、1 作品につき 8 分の持ち時間であったが、設計者から作品のコンセプトやアピールポイントについて密度の高いプレゼンテーションが行われた。質疑応答も 2 分という短い時間ではあったものの、活発な議論がなされ、充実した発表会となった。その反面、参加者が必ずしも多く無かったため、来年度においては、関係団体、大学などを通じた積極的な案内を行い、より多くの方々にご参加いただけるよう努めていきたい。

第 30 回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員 (社会文化) 板垣 直行

第 30 回東北建築賞表彰式は、6 月 20 日(日)、東北芸術工科大学本館 1 階ラウンジにて「みちのくの風 2010 山形」の 2 日目午前のイベントとして執り行われた。東北建築賞の受賞は、作品賞 4 点、研究奨励賞 1 点の合計 5 点であった。表彰に先立ち、作品賞については西野敏信審査委員長、研究奨励賞については松井壽則審査委員長より選考経過報告と講評が行われ、続いて田中礼二支部長より各受賞者に賞状、賞杯が贈られた。その後、受賞者から挨拶と受賞作品紹介が行われた。
また、東北建築賞受賞作品および AIJ 東北法人会員、JIA 山形の作品パネルが、「みちのくの風 2010 山形」の会期中 6

- 第 31 回東北建築賞作品賞選考委員会
選考委員長 ・竹内 昌義 東北芸術工科大学
建築・環境デザイン学科/みかんぐみ
委員 ・五十子 幸樹 東北大学大学院工学研究科
都市・建築学専攻
- ・最知 正芳 東北工業大学建築学科
 - ・権代 由範 宮城工業高等専門学校建築学科
 - ・三浦 秀一 東北芸術工科大学
建築・環境デザイン学科

月 19～20 日の 2 日間にわたって、同会場に展示された。本表彰式および展示会は、受賞者並びに作品・論文応募者の方々、山形支所及び支部の関係者・スタッフ、委員長はじめ選考委員、JIA 東北支部および山形地域会の方々の準備と協力により開催することができたものであり、関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

作品選集 2011 東北支部選考経過報告

東北支部選考部会長 若松 信行

支部への応募作品数は 17 作品であった。昨年より 2 作品程多かったものの、もっと多くの応募があるものと期待していたのだが、昨今の経済事情を反映しての結果なのか、すこし残念であった。応募作品の用途は住宅から競輪場まで幅広く、一次審査（選考基準を確認した後、投票による）は難航が予想された。7 月 5 日、事務局にて選考委員全員（前田卓、三浦秀一、佐久間治、石垣充、櫻井一弥、浦部智義、若松信行）による第一次選考を行い、青森 1、岩手 1、福島 3、宮城 6 の 11 作品を現地審査対象として選出した。現地審査は、8 月 10、11 日に青森、岩手の作品、24、25 日に福島、宮城の作品を対象として行った。8 月 25 日には引き続き夕刻より第二次審査を行い、特に優れた作品 A ランク 4 作品、他 2 作品を B ランク、1 作品を S ランクとして推薦することとした。

今回、一次審査の時点でそれほど強い印象を持たなかった作品が現地審査を経て、A ランクに選ばれた。しかも全員一致の推挙であった。改めて現地審査の重要性を感じた次第である。また、各委員にとって、数日間、現地審査を共にしながらの意見交換は、互いの審査判断の材料に欠かせないものであったようである。良い審査が出来たと感じている。各委員の協力を感謝したい。

A ランク

「連続し、よりそう、箱／庭」
大船渡市民文化館・市立図書館／リアスホール
十和田市現代美術館
いわき幼稚園

B ランク

いわき芸術文化交流館アリオス
仙台中央第一生命ビルディング

S ランク

いわき平競輪場

2010 年度日本建築学会設計競技 東北支部審査報告

審査委員長 櫻井 一弥

今年の課題は「大きな自然に呼応する建築」である。東北支部には 14 点の応募があり、平成 22 年 7 月 20 日に、日本建築学会東北支部において支部審査会が行われた。出席者は石川宏之（八戸工業大学）、須田眞史（宮城学院女子大学）、鈴木孝男（宮城大学）、櫻井一弥（東北学院大学）の 4 名の審査委員である（1 名欠席）。委員の互選により、審査委員長として櫻井委員、議事録作成者として石川委員が選出された。続いて、14 作品中上位 4 点以内を支部入選とすることを確認の上、出席者 4 名がそれぞれ 5 点の作品を選び、ディスカッションを経て選考を進めた。

杉の間伐材とカキ殻を用いた人工の島を松島湾に浮かべる「白い浮島」、定禅寺通りのオフィスビルを自然共生型にリノベーションする「Symbiotic building—呼吸する外皮構造による自然共生型オフィス—」の 2 作品が 4 票を獲得し、まずは支部入選として選出された。その後の議論で、河原に吸水性ポリマーの巨大なオブジェを設置し、その吸水変化や温度変化で形態が変わるという「primitive RHYTHM」、様々な大きさを持った店舗の屋上部分に透水性のある多孔質素材を載せ、アーケードの中で雨を感じるための仕掛けを挿入していく「雨の滲む都市の中で」の 2 作品が選ばれ、合計 4 作品を支部入選とし全国審査に選出した。

今回の課題では、大きな自然という主旨をいかに捉えるかがポイントとなり、その捉え方によって作品のコンセプトに幅が出た結果となったが、選出された作品はいずれも独特の解釈で個性的な解を導き出したものと評価できる。

2010 年度東北支部研究報告会報告

常議員（学術教育） 浅里 和茂

2010 年度東北支部研究報告会は「みちのくの風 2010 山形」として、2010 年 6 月 19 日（土）・20 日（日）の両日、山形市の東北芸術工科大学を会場に開催された。発表論文数は計画系 66 題、構造系 46 題の合計 112 題であった。当日は 4 会場に分かれ、計画・歴史意匠、環境、構造、材料施工の分野ごとに活発な意見交換が行われた。研究報告会とは別に、初日の午前中には会長講演として佐藤滋氏（日本建築学会会長・早稲田大学教授）による「城下町都市のデザインと中心市街地の再生」の講演、午後には三浦秀一氏（東北芸術工科大学准教授）をコーディネータとして「サステナブルな東北の住宅デザイン」のテーマでパネルディスカッションおよび山形エコハウスの見学会が開催された。2 日目の午前中には構造・材料部門の招待講演として小檜山雅之氏（慶應義塾大学准教授）による「住まい

づくりを支援するリスクコミュニケーション」の講演会が開催され、その後、第30回東北建築賞表彰式・受賞記念講演会が開催された。

今回から論文を電子投稿とし、報告集の発行をCDが主で冊子版を予約販売とするなど、大きく変更した。支部として初めての試みであったため、投稿者にはご不自由をおかけした点もあり、ここでお詫び申し上げますとともに、準備運営にあたられた関係各位に深く感謝する。

2010年度日本建築学会東北支部総会報告

常議員(総務企画) 五十子 幸樹

日時: 2010年5月15日(土) 15:30~16:50

場所: せんだいメディアテーク 7階スタジオシアター

出席者: 50名(委任状含む)

資料:

資料No.1: 日本建築学会東北支部年報30号

資料No.2: 2009年度 収支計算書

2010年3月31日付 貸借対照表

2009年度 正味財産増減計算書

会計監査報告書

2010年度 収支予算書(案)

五十子幸樹常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 出席者数及び委任状の確認

出席者38名、委任状12通、合計50名の確認があり、東北支部会員1,174名の1/30(39名)以上に当るため、本総会が成立することが確認された。

2. 支部長挨拶

井上範夫支部長による挨拶があり、昨年度の建築学会大会(東北)について関係者への感謝の意が表明された。

3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名者として、堀則男氏及び石川宏氏が選出された。

4. 議事

東北支部規程により、井上範夫支部長が議長を務め、以下の事項について審議された。

(1) 2009年度事業及び会計に関する件

1) 2009年度事業

渡邊浩文常議員より、資料No.1の支部年報17~18ページの「2009年度事業報告」にもとづき、2009年度事業内容が報告された。

2) 2009年度収支決算

渡邊裕生常議員より、資料No.2の「2009年度収支計算書」、「2010年3月31日付け貸借対照表」、「2009年度正味財産増減計算書」にもとづき、2009年度収支決算が報告された。

3) 会計監査結果

保坂秀人支部監事の代理として司会の五十子幸樹常議員より、資料No.2の会計監査報告書の通り、2009年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

以上2009年度事業、収支決算及び会計監査結果に関する報告内容について審議した結果、特別な問題指摘もなく、これらの事項が承認された。

(2) 2010年度事業及び会計に関する件

1) 2010年度事業計画(案)

石川宏之常議員より、資料No.1の支部年報19~20ページの「2010年度事業計画(案)」にもとづき、2010年度事業計画案が説明された。

2) 2010年度収支予算(案)

渡邊裕生常議員より、資料No.2の「2010年度日本建築学会東北支部収支予算書(案)」が説明された。

2010年度事業計画(案)及び収支予算(案)について審議した結果、特別な問題指摘もなく、原案通り承認された。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2010年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

以上

研究部会活動報告

(1) 歴史・意匠部会

部会長 狩野 勝重

本年度は、フィールドワークとしての歴史的建造物のアーカイブス作成作業というよりは、地道な作業ではあるが、これまで収集してきた歴史的建造物リストを、より活用可能なシステムに変更することを検討した。

しかし、部会委員全員がひと時に集合することが大変に困難な現状にあって、通信部会に依存せざるを得ないことは、今後の部会運営に関して苦慮する処である。とりあえず、本年度は通信部会と研究会を同時開催することにした。

第1回 歴史意匠部会は平成22年12月10日の通信部会とし、「2011年度支部研究補助費について」意見を集約し、宮城県教育委員会からの要請に基づき、「平成22年度雄勝石加工技術伝承活性化事業 スレート建材の調査事業」を山形大学の永井康雄君を中心とした調査チームが引き受けることとした。

第1回 歴史意匠部会に引き続いて開催された第1回研究会では、福島県における未指定文化財「左下り観音堂」調査報告会（狩野勝重）が開催され、同観音堂が鎌倉時代初期の修験道施設を彷彿とさせる平面形態を現在に伝えるものであることが報告された。

第2回歴史意匠部会は、平成23年1月22日（土）に、第1回研究会で報告された会津美里町「左下り観音堂」の研修会を兼ねて、福島県高等教育協議会が展開するエリアキャンパス事業の一環である『住環境創生大学校 須賀川』との共催で、日本大学工学部の協力を得て開催された。

この部会では2011年度支部研究補助費について「東北地方の建築アーカイブスに関する研究」を2011年度本部研究補助費申請テーマとすることを決定し、永井康雄教授（山形大学地域教育文化学部）を2011年度部会長として選出することを決めた。

建築アーカイブスについては、宮城県の近世以前のものとして仙台藩大工棟梁の朴沢家、千田家資料（何れも仙台市博物館蔵）、近代では、東北大学や東北学院大学、などで所蔵している大学建物関係の資料、現代では、建築家協会などが所蔵しているもの等々を対象に資料の搜索・確認、リスト作成を行い、研究や教育、文化財行政などに役立てようとするものである。

この原稿を作成している丁度その時に「東日本大震災」が発生。福島県須賀川市では「近代化遺産」として取り上げた醸造業における近代商業の一形態を代表するような大店の土蔵群が失われようとしている。建築アーカイブスの作成が、いままでに必要な時期に来ていることを実感させられた。



「左下り観音堂」

(2) 建築計画部会

部会長 石井 敏

建築計画部会では、久しぶりに見学会と、見学会にあわせてレクチャーを企画・実施した。今回は、建築計画委員会文化施設小委員会の協力を得て、合同企画という形で実施した。

見学先は「大船渡市民文化会館（リアスホール）」。2009年日本建築大賞、2010年度東北建築賞を受賞するなどデザインや劇場機能の水準が高く評価されていることに加えて、地域との関わりを主眼とした計画及び設計内容は地域との関わりを持つ公共劇場モデルとして注目された事例である。地域の拠点となる施設のあるべき姿を巡って、設計・運営の様々なプロセスにおいて市民参加の在り方が各地で実践されており、今回の見学会では、その意義と具体的なプロセスを広く共有する機会として、見学会とあわせて設計者（新居千秋都市建築設計）のレクチャーをあわせて実施した。

レクチャーでは、設計を担当された吉崎良一氏（新居千秋都市建築設計）と内藤将俊氏（現在、内藤将俊建築設計事務所）に建築全般と市民参加の計画・設計の実際を、劇場コンサルタントの戸田直人氏（シアターワークショップ）に舞台機能と管理運営面のスキームを、市民文化会館の担当スタッフの方に開館後のアクティビティの状況をご説明頂き、非常に密度の濃い有意義な見学会となった。

関東地方からも多数参加いただき、盛況のうちに見学会を終えることができた。実際に建築を見ながら設計者、運営者、参加者が意見を交わす機会はとても刺激的である。企画・実施には負担も少なくないが、部会メンバーの協力を得ながら、今後も積極的に見学会を実施していきたいと考えている。

(以下、2011.04.14補遺)

先の東日本大震災において、大船渡市にも甚大な被害を被った。4/13に建築計画部会メンバーとともに初動調査のためリアスホールにも訪れたが、避難所として重要な役割を担い機能していた。被災直後、最大時は400名あまりの避難者を受入、訪問時は150名程度の避難者が暮らしていたという状況報告を、最後に付け加えておく。部会メンバーとともに建築計画が果たすべき役割を短期・中期・長期的な各視点から捉えながら、復旧・復興のプロセスでの調査、支援活動の具体的なあり方を検討し、実行に移していきたい。

(見学会データ)

見学会日時：平成22年11月6日(土) 13:00~16:00

会場：大船渡市民文化会館(リアスホール) (岩手県大船渡市盛町字下館下18-1)

参加者：30名

(プログラム)

13:00~14:15 レクチャー

司会 石井敏(東北工業大学/東北支部建築計画部会長)

主旨説明 坂口大洋(東北大学/文化施設小委員会主査)

・建築・市民参加について 吉崎良一・内藤将俊(新居千秋都市建築設計)

・舞台機能・管理運営について 戸田直人(シアターワークショップ)

14:15~15:30 見学会

15:30~16:00 質疑応答

(3) 地方計画部会

部会長 増田 聡

ここ数年、地方計画部会では「防災まちづくり」をメインテーマとして活動を行い、一般公開の市民フォーラムを企画運営してきた。研究活動としては、本部研究補助費で実施した「Web-GIS等を活用したコミュニティ防災力の評価と高度化」の研究を継続し、町内会(自主防災組織)の防災力格差等について検討を進めた。また、「第6回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム(2011年3月6日、東北大学片平さくらホール、宮城県沖地震対策研究協議会主催、地方計画部会共催)」を開催した。特に今回のフォーラムは、ワンポイント防災セミナーで「地域防災リーダーの多様化と進化」を取り上げ、恒例の「救護の達人コンテスト」や地域防災活動のパネル・ポスター展示とあわせて、防災まちづくりの普及啓発活動を行った。

しかし残念ながら翌週3月11日に、「想定宮城県沖地震」をはるかに超える「東北地方太平洋沖地震」が発生し、M9.0の地震及び10mを超えるような津波に起因する未曾有の大災害を経験することになってしまった。被害の詳細は、今後さ

らに明らかになると思われるが(3月14日記述)、「想定外の事象」として無力感を感じているだけでは済まされないといえる。構造物の耐震化、ブロック塀の除去など一定の成果を挙げ始めていたとはいえ、街全体を飲み込む巨大津波をもたらした量的オーダーが違う人的被害・建物被害・経済被害に対して、事前対応・計画論的減災対策が手薄であったことは否めない。また上記研究(対象は主に地震動であるが)で明らかになった「リスクの地域差と整合的ではない地域防災力」の課題は、高リスク地域でより手厚い検討や対応・介入を優先的に実施する体制の必要性を示している。

今後、地方計画部会としては、学会本部・都市計画委員会や災害委員会及び大震災調査復興支援本部、さらには都市計画学会・土木学会の東北支部等とも連携して、復旧・復興に向けた部会活動を展開することが求められよう。その際には、地方都市における中心市街地の役割や東北型コンパクトシティ論、限界集落のコミュニティ再生論、あるいは撤退論などの研究成果を踏まえることが重要となる。また、被害想定のある方自身も見直す必要もあろう。部会員各位の協力をお願いします。

(4) 構造部会

部会長 植松 康

本年度の構造部会では7月に、東北大学先端学術融合工学研究機構が主催する講演会「CASTフォーラム 建築ラッシュ中の中国における新しい建築構造及び耐震技術」を共催した。講演会では、建築構造に関わる中国同済大学の若手研究者を5名お招きし、中国における新しい建築構造や耐震技術について講演して頂いた。同大学の謝強准教授からは、「中国電力設備グリッドの災害損失評価及び軽減法」、唐和生准教授からは「自然現象を模擬したシステム同定計算法」、陳軍講師からは、「Geocell 補強基礎の支持力」、謝麗宇講師からは、「免震構造物のヘルスマonitoring」、李素貞講師からは、「不確定境界を有する梁の軸力同定法の提案」について、それぞれご講演を頂き、部会委員からの活発な質疑応答があった。

また、本年度は支部研究補助費の補助を受けて、研究課題「東北地方既存不適格公立学校建築物構造耐震性の動向に関する調査研究」に取り組んだ。各県の構造部会委員が協力し、東北地方公立学校の既存不適格屋内運動場について岩手県13件、秋田県113件、福島県93件、宮城県47件の計266件の耐震診断データを収集した。また、これをデータベース化している。今後、このデータベースを用いて積雪荷重と耐震性の関係など統計的な解析・検討を行っていく予定である。

以上のように、本年度の構造部会では講演会の開催により、時宜に応じた情報の収集と部会員同士の情報交換・交流の場を設けると共に、各県の部会委員が協力して、研究課題に取り組み成果をあげている。

(5) 環境工学部会

部会長 渡邊 浩文

環境工学部会は、「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」を課題としながら、他分野との連携と地元のニーズへの配慮に留意しつつ部会活動を行っている。

具体的には部会開催時に上記に関連する研究者による勉強会の開催と、市民向けあるいは専門技術者向けの研究会・見学会等の開催である。テーマに応じて関連する他団体（空気調和・衛生工学会東北支部、建築設備技術者協会東北支部、電気設備学会東北支部、日本技術士会東北支部など）との共催や、日本建築士会東北支部のメーリングリスト参加により、情報の相互流通も図っている。

今年度の活動を列挙すると下記の通りである。

1.部会および勉強会の開催

- ①7/23 第1回部会および勉強会「火災現象と防災対策：佐賀武司先生」
- ②3/11 第2回部会および勉強会「建設におけるエネルギーを軸とした環境技術の現状と将来：竹林芳久先生」

2.研究会などの開催

- ①6/2、3 出版説明会「学校トイレの計画・メンテナンスマニュアル」、参加者：70名
- ②6/20 見学会「仙台トラストタワー」、参加者：44名
- ③9/26 公開シンポジウム「積雪寒冷地の住まいにひそむ生活環境上の危険を考える」、参加者：51名
- ④10/26 見学会「岩手県八幡平市りんどう年間低温培養雪冷房システム」、参加者：25名
- ⑤11/9 公開講演会「身のまわりの空気から地球の大気までの環境を考える」、参加者：42名
- ⑥12/7 見学会「東北大学エコラボ」、参加者：36名
- ⑦3/25 第59回東北環境設備研究会「オゾン層の過去・現在・未来—地球温暖化との深い関係—」（原稿執筆 3/10 のため参加者数不明）

(6) 材料部会

部会長 三橋 博三

2010年度も前年度から継続した「サステナビリティ確保に向けての建築材料科学教育のあり方に関する調査研究」をテーマとし、秋田県立大学における実教育例を元にした模擬講義を行い、講義の副読本的なツールの作成に取り組んだ。

第1回部会は5月14日に開催され、昨年から継続したこれらの活動方針を確認すると共に、これらのテーマに関わる情報収集の一環として、建築以外の分野も含めて上記内容に関して幅広い知見を有する方を講師とした講演会の企画について協議した。その結果、東北大学大学院環境科学研究科の石田秀輝教授に講師をお願いすることとした。

第2回部会は、その講演会として9月14日に、せんだいメディアテーク 7階スタジオシアターにて“シンポジウム：建築材料と建築のサステナビリティ”を開催した。石田先生の公演に先立ち西脇智哉委員（東北大学大学院）より、「コンクリートの自己修復」を例に、材料開発における考え方や、問題提起を頂いた。

これを受けて石田先生に「自然に学ぶ粋なテクノロジー」と題するご講演を頂いた。石田先生は自然のメカニズムやシステムを改めて科学の眼で捉え、新しいテクノロジーに「リ・デザイン」する「ネイチャー・テクノロジー」提唱されており、カタツムリの殻が汚れない原理から汚れにくいタイルを開発されたエピソードなどをご紹介頂いた。それらの発想は、現在我々の前に立ちはだかる地球環境問題の解決にあたり、非常にポジティブな考え方を促すものであり、ますます見通しが暗くなる未来に対し、新たな光明を見出せた思いであった。このようなモノの捉え方・考え方は、サステナビリティが求められるこれからの建築材料・建築を考えていく上でも、重要な羅針盤になると考える次第である。

第3回部会は1月18日に開催され、今年度の勉強会の成果をとりまとめ、来年度に具体的な形にしていくことを確認した。

(7) 施工部会

部会長 最知 正芳

本部会が数年をかけて取り組んできた「東北地方における建築物リニューアルの実態と改修技術の調査研究」が平成21年度において完結し、平成22年度からは、新たな視点をもって、広く建築生産の領域における様々な案件に向き合い、取り組んでゆくことになった。

今年度は、委員が産学官の広い職域に渡っているという本部会の特色を活かしながら、今後取り組むべき課題の絞込みに向けた活動を行なうこととし、4回の定例会と1回の見学会を実施した。その大要は次のとおり。

1)定例会(H22.05.12:東北支部会議室)

木造建築の促進化の流れ、高齢化社会と建築現場の実態、建築物の長寿命化に向けた取り組み等に関し、意見交換等を実施。

2)定例会(H22.07.21:東北支部会議室)

5月に公布された「公共建築物等における木材利用の促進に関する法律」を中心として、木材利用や木構造に関する意見交換等を実施、その流れを受けて大規模木工場の見学を決定。

3)見学会(H22.09.01:山大石巻本社工場)

製材工場、プレカット工場、CAMによる一貫生産システムなどを見学。

4)定例会(H22.12.15:東北支部会議室)

外断熱関連、建物内の事故に関して意見交換等を実施。

5)定例会(H22.02.16:東北支部会議室)

平成22年度の活動の総括と次年度に向けた活動方針についての協議、寒冷地特有の不具合事例、及び施工時における近隣クレームに関しての意見交換等を実施。

次年度も引続き、委員から提示された案件に沿って討議を重ね、研究テーマの絞込みを図ってゆく予定である。

(8) 建築デザイン教育部会

部会長 相羽 康郎
幹事 大沼 正寛

現体制で当部会を運営して4年目となり、今年度は次年度以降の方向を探るべく委員間での討議に徹した。また社会公開や各種イベントは、小所帯での独自開催よりも、支部研究報告会など全体に波及できる場に連携させるほうが効果的である、とのねらいもあった。

6月19日の部会においては、昨今の設計教育の重要テーマである「場所性」について議論した。多くの大学・高専において建築学科から社会系、芸術系、環境系などに範囲を広げた学科体制を採っており、それと「場所性」は関係しているし、フィールド・サーベイの重要性も増している。この点について各校の動向を探ろうと、委員間でアンケート収集を図ることになった。サーベイだけの情報収集でなく広範な内容で原案が作成されたが、目的が不明確となったことなどからその後進展しなかった。その代わりに学会設計コンペ、卒業制作の作品や活動成果を場所性から評価するため、関連する発表会に参加した。

2月22日の部会において、主に次年度以降の部会活動内容について方針を立てた。23年度は部会委員に「一押し演習課題」の情報収集を行い、互いの教育内容向上に役立てる計画をしている。また学会大会において建築デザイン発表会が設置されていることに鑑みて、以下の2点を、24年度から実施できるよう検討することとした。

一つは支部研究報告会での「建築デザイン報告会」で、実務家の現場から学生コンペまで、自由な提案と議論の場を設ける。もう一つは「学生建築コンペ共同公開エスキス」である。東北地方の学生設計のレベルを向上させ、全国でのコンペ入賞を目指して、実務家や他校の教員からも評価と助言を得られる機会を設けるものである。

今後、常議員らとの情報交換、調整を進めるべく、関係各位のご協力をお願いしたいと考えている。

(9) 災害調査連絡会

部会長 源栄 正人

2009年度は本部災害委員会の市民企画講座の助成を受け、東北支部地方計画部会との連携のもと、「生涯教育（学びのコ

ミュニティ）の活動と連携した市民防災講座」を開催した。第一弾企画は、2009年8月11日（火）に仙台市立長町南小学校で開催された防災講座「地域の自然と歴史を学んで、地震に備える」であり、仙台市長町地区の一般住民と小学生児童を主対象とした。第二弾企画は、2010年3月7日（日）にフォレスト仙台で開催されたワンポイント防災セミナー「宮城県沖地震の再来に向けた防災と福祉の地域連携」であり、宮城県下の市町村に対して広く参加を呼びかけた。共催機関は仙台市における生涯学習の枠組みの一つである学びのコミュニティながまち推進委員会、宮城県沖地震対策研究協議会などであり、宮城県、仙台市などの後援を得た。

第1弾企画の防災講座には、行政職員や市民など42名の参加があった。昭和53年宮城県沖地震を長町地域で実際に体験された3名のゲストと村山良之氏（山形大）を聞き手とした座談会「昭和53年宮城県沖地震による長町界隈の被害」が行われ、長町地域の災害特性と災害教訓が再確認された。第二弾企画のワンポイント防災セミナーには、行政職員や市民など約160名の参加があった。セミナーのテーマは、第一弾企画の活動成果として浮かび上がってきた問題として、「災害時要援護者」が扱われた。

また、2009年度は海外において、2010年1月12日ハイチの地震(Mw7.0)、2010年2月27日チリ中部沿岸の地震(Mw8.8)などの巨大地震が発生したが、幸いにして東北地方で発生した地震災害や自然災害はなかったため、災害調査連絡会としての調査活動は行わなかった。

(報告：佐藤 健 東北大学)

支所だより

青森支所

青森支所長 盛 勝昭

2010年度の青森支所の活動状況について報告いたします。6月11日、9月27日、幹事会を開催し『建築物の省エネ法等に関する講習会』等の年間事業計画を策定し、その後、講習会実施に向けて細部を決定してまいりました。

また、7月16日に開催されました『全員協議会』では、「すまい職人の育成・確保の取り組みについて」と題し、(株)まちづくり計画設計青森事務所所長 中田憲飛人氏より、青森県住宅リフォーム推進協議会が「青森県すまい職人きらりアップ計画」に基づき実施している若手職人育成事業について講演していただきました。

この事業は、住宅建築の専門家らが県内の小中学校を訪問し出前授業を行い、家造りの魅力を伝え、建築士や大工など住宅建築に関わる職人という仕事に理解を深め興味や関心を高めることにより、こども達がすまい職人を目指すきっかけづくりを行うというものです。出前授業は23年度も継続して行われる予定です。

また、2011年2月16日に開催されました『建築物の省エネ法等に関する講習会』は、改正された省エネルギー法において、省エネ措置の届出義務の対象に加えられた中小規模の建築物に対する届出の概要や計算法を再確認しました。

当年度県内での開催はこの講習会のみということもあり、大変関心が高く、当日は、雪の降りしきる悪天候にもかかわらず、120名余りの方が熱心に聴講されていました。なお、本講習会は(社)青森県建築士会(社)青森県建築士事務所協会からの後援をいただきました。また、受講された方々から「住宅の省エネ措置法」についても講習会を開催してほしいとの要望があり、2011年度には開催を予定しています。

2010年度の『東北建築賞受賞作品展示会』は、10月9、10日の両日八戸工業大学を会場に開催され好評を得ました。

秋田支所

秋田支所長 山口 邦雄

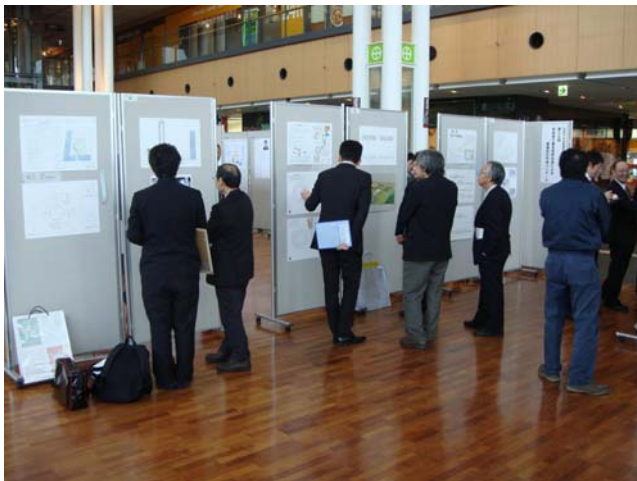
秋田支所が毎年のこととして力を入れている活動に、「秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール」があります。今年で、第39回となるこのコンクールは、9団体の後援を得て支所が主催するものであり、その開催の趣旨を「建築学の分野に研鑽努力を続け、これから建築関係業界へ大きく羽ばたく生徒諸君らの成果に対して、広く発表の機会を作ると共に県民の建築への関心をさらに高めようとするもの」としています。

今年は6校から合計14作品の応募があり、高齢者関係の施設にソーシャルミックスの視点を組み込んだ作品、環境問題

を強く意識した作品、あるいは秋田県で重要な地域活性化を全面に打ち出した作品など、社会の動向を敏感に感じとったテーマ設定となっているのが特徴的でした。これら作品は、秋田駅に隣接する秋田市民交流プラザ・アルヴェの1階「きらめき広場」にて3日間にわたり広く公開され、最終日には表彰式と各作品への個別講評が行われました。

この他にも、建築学会東北建築賞・作品賞のパネルと全国大学・高専卒業設計の同時展示、県内で行われた第2回よみがえる廃校全国サミットの後援、秋田県建築士事務所協会主催による「第24回秋田の住宅」コンクールの後援と審査員の派遣など、他団体との連携にも力を注いでいます。

現在は、6月25、26日に開催される「みちのくの風2011秋田」に向け、支所と連携して準備を進めているところです。支所として秋田らしい企画も考えていますので、ぜひご来秋下さい。



表彰式後の審査員による個別講評

岩手支所

岩手支所長 大水 敏弘

2010年度の岩手支所の活動状況について報告します。

「第30回東北建築賞作品賞受賞作品展示会」を、9月3日(金)から5日(日)までの3日間、盛岡市アイスアリーナにおいて開催しました。同展示会は、例年、岩手県及び盛岡市などが主催する住まいや環境について幅広く情報提供を行う「住まエネフェスタ2010」と併せて開催しているもので、3日間で1万5千人を上回る来場者がありました。同フェスタには、地元産業技術短期大学の学生による作品展も併設され、一般来場者はもとより、建築関係者や建築を学ぶ若い学生も多く来場し、建築学会の活動を広く知ってもらう機会を提供すると共に、地域の特性を活かした建築作品に触れる場として、効果的かつ興味深い展示会になったものと考えております。

また、「第34回盛岡市景観シンポジウム」が支所後援事業として11月19日(金)にプラザおでつで開催されました。

今年は「次世代に継承する景観からのまちづくり」と題して、第一線で活躍される(株)かいアソシエイツの浦口醇二氏による基調講演のほか、「まちの色と素材から地域を考える」をテーマにパネルディスカッションや盛岡市都市景観賞の表彰式等が行われ、景観の保全や形成に関する幅広い意見が交わされました。

支所では今後とも、建築関係の見識を深めるための行事の開催や後援を通して、地域の建築活動との連携や地域社会との交流を図っていきたくと考えています。

山形支所

山形支所長 相羽 康郎

支部活動の基本方針は引き続き、建築情報および山形県人が貢献してきた建築の歴史を県民に普及させること、特に若い世代に伝えることである。「親と子の建築教室」もそれまでのCAD学習から、郷土の建築を伝える活動に方向転換した昨年度の企画では子の参加が得られなかったことを踏まえ、幹事会で方法を模索した。

5月26日の幹事会で、子が集まる機会を無から創出する困難さを考えると、山形支所内の学校建設の機会を活用し、竣工後も学校行事をとらえて、継続できる可能性を探ることが提案された。その場でいくつかの竣工予定情報を踏まえ、関係する設計事務所から学校に相談してもらう方法で開催可能性を探ることが決定した。

10月13日の拡大幹事会には、今年度竣工する県内M中学校を設計している事務所の方にご参加頂き、竣工セレモニーとして、当該中学校の設計に関する情報提供と、中学生に知っておいてもらいたい建築の教養学習を合わせて1時間程度とし、後者のレジメ案が検討された。レジメは近代建築・都市形成の歴史の大きな流れを映像とともに解説する内容で、郷土の建築家伊東忠太などをその中で取り上げるものだが、さらに郷土色を強めることが提案された。

しかしその後設計担当の事務所からの報告によると、M中学校の教頭先生と調整を進めてきたが、建築だけでなく外構まで含めた完成後がよいと事務所側が判断し、すべての工事終了後をめどとする予定となっている。

福島支所

福島支所長 野内 忠宏

2010年度の福島支所の活動状況について報告いたします。今年度は、建築文化週間事業『建築を想う環境講座』及び『第30回東北建築賞受賞作品展示会』を中心に活動しました。

『建築を想う環境講座』は、10月16日に福島市にて「岩見沢複合駅舎」で2010年日本建築学会賞作品賞及び2009年グッドデザイン大賞を受賞された建築家の西村浩氏を講師にお

招きし、「建築はまちを救えるか? ～岩見沢複合駅舎のこれから～」と題して講演会を開催しました。

講師である西村氏の建築やまちに対する熱い想いは、地域で建築やまちづくりに取り組む多くの参加者の琴線に触れたと確信しています。

『第30回東北建築賞受賞作品展示会』は、2月に郡山市にて「JIA福島2010作品展」及び「日本大学工学部卒業設計作品展」と合同で開催しました。学生の意欲的な作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで数多くの建築作品が並び、見応えのある作品展となったのではないかと感じています。また、作品展にあわせて「現代社会に対する建築からの提案」をテーマに一般市民や学生、建築関係者によるフリートークセッションを合同で行い、幅広く意見を交わしました。

これら主催事業以外にも、建築系高校卒業設計表彰や各種講習会など様々な活動を地域の関係団体と連携を図りながら行いました。

いずれの催しも、数多くの参加者に恵まれ、会員や建築関係者はもとより、一般の方々に建築や地域への関心を深めていただくとともに、学会活動の社会還元行事として、充実した活動を実施できたと思っています。

今後とも地域の学校や関係団体との連携・協働を行いながら、地域に根ざした支所活動を実践し、さらなる事業の充実に心がけてまいります。



常議員会から

常議員（総務企画） 堀 則男

常議員会は、支部長と14名の常議員で構成され、必要に応じ、企画運営委員（現在は在任なし）、監事2名、支所長5名の出席を得て開催される。また、6月「みちのくの風2010山形」においては佐藤滋会長の支部訪問があり、支部長・総務企画担当常議員との懇談を行った。9月には支部長・総務企画担当常議員も出席して、支所長会議を実施し、みちのくの風、東北支部における個人会員・法人賛助会員の動向、新法人制度への対応などについて報告と意見交換を行った。

常議員会は概ね毎月行われているが、これに先立って総務会（支部長・総務企画担当常議員4名）を開催し、議事内容の検討などを行っている。議案が少ない場合には総務会のみを行い、常議員会はメールによるネットワーク会議としている。また、常議員会・総務会ともにインターネットを利用したWeb会議システムを導入しており、出席者の増加と旅費節減に効果を上げている。

2010年度の総務会・常議員会で取り上げられた主な議事について、要約して以下に示す。

【4月総務会】

決算報告、支部年報編集状況、支部研電子投稿の報告、支部総会、みちのくの風2010山形、事務局体制

【5月常議員会】

新旧役員の引継ぎ、年間行事予定、支部総会、みちのくの風2010山形の進捗状況、東北建築賞、学会賞（作品）受賞者記念講演会

【6月総務会】

支部総会開催報告、作品選集応募結果、各種委員等の推薦、中長期的な検討事項、みちのくの風2010山形の業務確認

【7月総務会・7月常議員会】

理事会報告、みちのくの風2010山形の報告、設計競技及び作品選集の支部審査結果、後援依頼の承認、常議員会運営体制、みちのくの風2011秋田、教育賞の推薦、支部研電子投稿フォームの修正

【9月総務会】

作品選集審査報告、東北建築賞応募報告と東北建築作品発表会、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」改定講習会、建築文化週間の報告、「特色ある支部活動」企画募集、大賞業績候補、文化賞候補業績

【10月総務会・10月常議員会】

理事会報告、代議員・常議員の選挙日程、東北建築作品発表会報告、設計競技全国入選とタジマ奨励賞の報告、作品選集掲載作品の報告、「特色ある支部活動」推薦報告、支部研電子投稿フォームのテスト報告と今後の予定、みちのくの風2011秋田、支部総会日程、選挙管理委員会、作品選集・設計競技の支部審査委員選出、予算編成に伴う支部交付金、事務局体制

【11月総務会・12月常議員会】

みちのくの風2011秋田、代議員・常議員候補者届出状況、作品選集・設計競技の支部審査委員選出、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」講習会開催報告、事務局体制、文化賞業績候補、「小規模建築物基礎設計例集」講習会開催、支部研究報告会募集要項、災害委員会委員推薦、支部年報企画案、支部総会、支部予算（案）、国際交流基金、支部研究補助費の申請

【1月総務会・2月常議員会】

代議員・常議員候補者届出報告、支部研究補助費の申請、事務局体制、「小規模建築物基礎設計例集」講習会開催、支部総会と付随行事、みちのくの風2011秋田、災害委員会委員推薦、支部法人賛助会員の推移と今後の対策、都市計画本委員会委員推薦

【3月総務会】

東北建築賞選考報告、全国大学・高専卒業設計展示会日程、「小規模建築物基礎設計例集」講習会開催報告、支部年報編集状況、支部研電子投稿報告、災害委員会委員推薦、支部総会、みちのくの風2011秋田、東北建築賞募集要項、災害委員会支部企画募集

支部役員名簿

東北支部常議員・企画運営委員の構成と役割分担

役割	2010年度 (2010年6月～2011年5月)	2011年度 (2010年6月～2011年5月)
支部長	田中礼治 (東北工大)	田中礼治 (東北工大)
総務企画	五十子幸樹 (東北大) 石川宏之 (八戸工大) 浦部智義 (日大) 堀 則男 (東北工大)	浦部智義 (日大) 堀 則男 (東北工大) 西脇智哉 (東北大) 安部信行 (八戸工大)
社会文化	三宅 諭 (岩手大) 松本純一郎 (松本純一郎 設計事務所) 板垣直行 (秋田県立大)	松本純一郎 (松本純一郎 設計事務所) 板垣直行 (秋田県立大) 三辻和弥 (山形大)
学術教育	浅里和茂 (日本大) 笹本 剛 (東北工大) 山本和恵 (東北文化学園大)	山本和恵 (東北文化学園大) 新井信幸 (東北工大) ブンタラ S. ガン (日本大)
会計会員	渡邊裕生 (仙台市)	渡邊裕生 (仙台市) 佐々木健二 (JR東日本)
図書情報	志村直愛 (東北芸工大) 飛ヶ谷潤一郎 (東北大)	飛ヶ谷潤一郎 (東北大)
事務局	伊藤章子 瀧 美雪 大場美香	伊藤章子 瀧 美雪

東北支部会員数 (2011年4月1日現在)

名誉会員	2名	準会員	24名
終身会員	54名	賛助会員	9法人
正会員(個人)	1174名		
正会員(法人)	39法人		

東北支部監事

2010年6月～2011年5月

関口美恵子 (仙台市)
我妻孝幸 (JR東日本)

2011年6月～2012年5月

我妻孝幸 (JR東日本)
渡邊裕生 (仙台市)

東北支部選出代議員

任期	代議員
2010年4月 ～ 2012年3月	若井正一 (日本大学教授) 相澤義博 (東日本旅客鉄道(株)仙台支社企画部長) 小野田泰明 (東北大学教授) 沼野 夏生 (東北工業大学教授)
2011年4月 ～ 2013年3月	相沢清志 (仙台市交通局東西線建設本部建設部長) 五十嵐太郎 (東北大学教授) 月永洋一 (八戸工業大学教授) 浅里和茂 (日本大学教授)

研究部会長

研究部会	部会長
構造部会	薛 松濤 (東北工業大学教授)
材料部会	板垣直行 (秋田県立大学准教授)
建築計画部会	石井 敏 (東北工業大学准教授)
地方計画部会	増田 聡 (東北大学教授)
歴史意匠部会	永井康雄 (山形大学教授)
施工部会	最知正芳 (宮城工業高等専門学校助教授)
環境工学部会	菅原正則 (宮城教育大学准教授)
デザイン教育部会	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
災害調査連絡会	源栄正人 (東北大学教授)

支所長

支所	支所長
青森支所	盛 勝昭 (株盛興業社 代表取締役)
秋田支所	山口邦雄 (秋田県立大学建築環境システム学科教授)
岩手支所	大水敏弘 (岩手県県土整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
福島支所	佐々木孝男 (福島県土木部建築総室建築住宅課課長)

2010 年度事業報告

〈事務の部〉

総 会	1. 2009 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2010 年度事業計画・予算案	2010 年 5 月 15 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (8)、総務会 (10)、支所長会議 (1)、東北建築賞 作品賞選考委員会 (3)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、 作品選集選考委員会 (2)、	() は回数
代議員半数改選	(留任) 濱田幸雄、斎藤文伸、持田 灯、橋本典久 (新任) 相澤義博、小野田泰明、沼野夏生、若井正一	2009 年 4 月～2011 年 3 月 2010 年 4 月～2012 年 3 月
支部長改選	(退任) 井上範夫 (新任) 田中礼治	2009 年 6 月～2010 年 5 月 2010 年 6 月～2011 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 本江正茂、松井壽則、渡邊浩文、西田哲也、田村宏治、 我妻孝幸、増田豊文 (留任) 五十子幸樹、石川宏之、三宅 諭、浅里和茂、笹本 剛 渡邊裕生、志村直愛 (新任) 板垣直行、浦部智義、飛ヶ谷潤一郎、堀 則男、松本純一郎 山本和恵	2008 年 6 月～2010 年 5 月 2009 年 6 月～2011 年 5 月 2010 年 6 月～2012 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	関口美恵子、我妻孝幸	2010 年 6 月～2011 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 植松 康 構造技術における新しい試み 材 料 : 三橋博三 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査 研究 建築計画 : 石井 敏 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 狩野勝重 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 渡辺浩文 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 最知正芳 建築現場における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 相羽康郎 場所性から建築設計教育を組み直すー東北学生作品と課題の分析と提案 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究 助成金による 研究	東北地方既存不適格公立学校建築物構造耐震性の動向に関する 調査研究 構造部会 (研究代表者 植松 康)	2010 年 4 月～2011 年 3 月
支部研究報告会	2010 年度東北支部研究報告会、 研究報告集第 73 号計画系・構造系刊行 発表題目 110 題	2010 年 6 月 19 日～20 日 東北芸術工科大学
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 福島支所主催「建築を想う環境講座～共に建築を考える～」 2) 第 21 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 3) 第 31 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2010 山形	2010 年 10 月 16 日 2010 年 9 月 25 日 2010 年 10 月～2011 年 1 月

	<ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演会 ・会長支部訪問ならびに記念講演会 ・第30回東北建築賞授賞式 ・第30回東北建築賞受賞作品展示会、JIA 山形等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業 ・福島会場「建築を想う環境講座～共に建築を考える～」</p> <p>2) 第30回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市</p>	<p>2010年6月19日～20日 東北芸術工科大学</p> <p>2010年10月16日</p> <p>2010年6月～2011年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第30回東北建築賞作品賞 作品賞4点、研究奨励賞1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰3名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員3名、法人賛助会員4社</p>	<p>2010年6月20日 東北芸術工科大学</p> <p>2010年5月15日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第30回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・建築物の省エネ等に関する講習会 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第30回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第39回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第30回東北建築賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第30回東北建築賞作品展示会：山形市 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第30回東北建築賞作品展示会：郡山市 ・建築を想う環境講座～共に建築を考える～ 	<p>2010年7月 2010年10月9日～10日 2011年2月16日</p> <p>2010年10月21日～24日 2011年2月16日</p> <p>2010年9月3日～5日</p> <p>2010年6月19日・20日</p> <p>2011年2月17日～19日 2010年10月16日</p>
刊行活動	<p>支部年報第30号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第73号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集（第21号）発行</p>	<p>2010年5月15日</p> <p>2010年6月19日</p> <p>2010年9月25日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	<p>支部共通講習会開催</p> <p>「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説改定講習会」講習会</p> <p>「小規模建築物基礎設計例集」講習会</p>	<p>2010年11月11日</p> <p>2011年3月3日</p>
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会</p> <p>山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	<p>2010年7月～2010年10月</p>
審査会	<p>2010年度支部共通 日本建築学会設計競技</p> <p>テーマ：大きな自然に呼応する建築</p> <p>日本建築学会「作品選集2011」東北支部審査会</p>	<p>2010年7月20日</p> <p>2010年6月～9月</p>

2011 年度事業計画（案）

〈事務の部〉

総 会	1. 2010 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2011 年度事業計画・予算案	2010 年 5 月 14 日 支部会議室
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (8)、総務会 (9)、支所長会議 (1)、東北建築賞 作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建 築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (2)、 作品選集選考委員会 (2)、研究部会連絡会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 相澤義博、小野田泰明、沼野夏生、若井正一 (新任) 相澤清志、五十嵐太郎、浅里和茂、月永洋一	2010 年 4 月～2012 年 3 月 2011 年 4 月～2013 年 3 月
支部長改選	(留任) 田中礼治	2010 年 6 月～2012 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 五十子幸樹、石川宏之、三宅 諭、浅里和茂、笹本 剛 渡邊裕生、志村直愛 (留任) 板垣直行、浦部智義、飛ヶ谷潤一郎、堀 則男、松本純一郎 山本和恵 (新任) 安部信行、新井信幸、佐々木健二、鈴木博之、西脇智哉 三辻和弥、BuntaraS.Gan	2009 年 6 月～2011 年 5 月 2010 年 6 月～2012 年 5 月 2011 年 6 月～2013 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	我妻孝幸、渡邊裕生	2011 年 6 月～2012 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長]	[テーマ名]	
	構 造 : 薛 松濤 材 料 : 板垣直行	構造技術における新しい試み サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査 研究—実教育への適用を考慮した教育ツールの検討—	
	建築計画 : 石井 敏 地方計画 : 増田 聡	21 世紀にむけた生活環境の創造 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編	
	歴史意匠 : 永井康雄 環境工学 : 菅原正則	災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究	
	施 工 : 最知正芳 建築デザイン教育 : 相羽康郎	建築現場における最新技術とその施工法について 場所性から建築設計教育を組み直す—東北学生作品と課題の分析と提案	
	災害調査連絡会 : 源栄正人	東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研 究助成金によ る研究	東北地方の建築アーカイブスに関する研究 歴史・意匠部会 (研究代表者 永井康雄)		2011 年 4 月～2012 年 3 月
支部研究報告会	2011 年度東北支部研究報告会 研究報告集第 74 号計画系・構造系刊行 発表題目 119 題		2011 年 6 月 25 日～26 日 大学コンソーシアム あきた カレッジプラザ
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 なし 2) 第 22 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 3) 第 32 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2011 秋田		2011 年 9 月 24 日 2011 年 10 月～2012 年 1 月 2011 年 6 月 25 日～26 日

	<ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演会 ・パネルディスカッションと見学会 ・第31回東北建築賞授賞式 ・第31回東北建築賞受賞作品展示会、JIA 秋田等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形会場（詳細検討中） <p>2) 第31回東北建築賞作品展示会</p> <p>仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市</p>	<p>大学コンソーシアムあきた カレッジプラザ</p> <p>2011年11月</p> <p>2011年6月～2012年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第31回東北建築賞作品賞</p> <p>作品賞4点、特別賞2点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技全国入選者代表者1名、支部入選者表彰代表者3名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員3名</p>	<p>2011年6月25日</p> <p>大学コンソーシアムあきた</p> <p>2011年5月14日</p> <p>支部会議室</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第31回東北建築賞作品展示会：八戸市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第31回東北建築賞作品展示会：秋田市 ・第40回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第31回東北建築賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第31回東北建築賞作品展示会：山形市 ・「親と子の都市と建築講座」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第31回東北建築賞作品展示会：福島市 	<p>2011年7月</p> <p>2011年10月</p> <p>2011年6月25日・26日</p> <p>2012年2月</p> <p>2011年9月</p> <p>2011年6月</p> <p>2010年11月</p> <p>2012年2月</p>
刊行活動	<p>支部年報第31号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第74号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集（第22号）発行</p>	<p>2011年5月14日</p> <p>2011年6月25日</p> <p>2011年9月24日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	未定	
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会</p> <p>山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	2011年6月～2011年12月
審査会	<p>2011年度支部共通 日本建築学会設計競技</p> <p>テーマ：時を編む建築</p> <p>日本建築学会「作品選集2012」東北支部審査会</p>	<p>2011年7月</p> <p>2011年6月～9月</p>

法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)山下設計
(株)大林組	(株)梓設計
(株)関・空間設計	(株)伊藤喜三郎建築研究所
(株)奥村組	東日本興業(株)
鹿島建設(株)	東北ポール(株)
(株)久米設計	(株)昂設計
(株)熊谷組	(株)みちのく設計
清水建設(株)	千田総兵衛建築事務所
仙建工業(株)	(株)東北設計計画研究所
大成建設(株)	(株)本間利雄設計事務所+ 地域環境計画研究室
(株)竹中工務店	(株)清水公夫研究所
鉄建建設(株)	東日本旅客鉄道(株)
戸田建設(株)	東北電力(株)
(株)ユアテック	(株)NTT ファシリティーズ
西松建設(株)	有限責任中間法人 東北空気調和衛生工事業協会
(株)間組	東北文化学園専門学校
(株)フジタ	日刊建設産業新聞社
堀江工業(株)	(株)佐藤総合計画
前田建設工業(株)	東北文化学園大学
(株)ピーエス三菱東北支店	
(株)三菱地所設計	